



平成 28 年 1 月 22 日

各 位

東京都千代田区大手町 2 丁目 6 番 2 号日本ビル

会社名 日本スキー場開発株式会社

代表者の役職氏名 代表取締役社長 鈴木 周平

(コード番号：6040 東証マザーズ)

問合せ先 常務取締役 宇津井 高時

電話番号 03-6214-3340

業績予想の修正及び特別損失の計上並びに役員報酬の減額に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成27年9月3日に公表しました平成28年7月期第2四半期（累計）業績予想及び通期の業績予想の修正及び特別損失の計上並びに役員報酬の減額について下記の通りお知らせいたします。

記

1. 平成28年7月期第2四半期（累計）連結業績予想の修正（平成27年8月1日～平成28年1月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	3,322	473	474	384	96円00銭
今回修正予想 (B)	2,677	△100	△104	△316	△79円08銭
増減額 (B-A)	△645	△573	△578	△700	
増減率 (%)	△19.4	—	—	—	

(注) 平成27年7月期第2四半期累計連結業績は、公表しておりませんので、記載を省略いたします。

2. 平成28年7月期通期連結業績予想の修正（平成27年8月1日～平成28年7月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	6,559	1,035	993	718	179円50銭
今回修正予想 (B)	5,444	100	94	△164	△41円08銭
増減額 (B-A)	△1,115	△935	△899	△882	
増減率 (%)	△17.0	△90.3	△90.5	—	
(ご参考) 前年実績 (平成27年7月期)	5,882	905	845	706	179円32銭

### 3. 修正の理由

平成27年9月3日に発表しました平成28年7月期業績予想の前提条件は、前期までに取得したスキー場については、来場者実績・客単価実績及び直近の動向や過去の平均的な気象条件を元に、来場者数・客単価を見積もっており、当期に取得した菅平高原スノーリゾートについては、グループ加入が平成27年11月であったため、業績予想には織り込まず、作成しておりました。

期初時点において、年間（平成27年8月から平成28年7月）を通してのスキー場全体の来場者数について、1,984千人（前期比110.3%、菅平高原スノーリゾートの来場者数は含まれておりません。）と見積もっておりました。

一方、費用については、各スキー場別に前年実績及び直近の状況を織り込んで見積もりしておりました。

そのような中、気象庁の発表によると、平成27年12月の東日本の月平均気温は平年差+1.9℃であり、昭和21年以降、12月単月としては最も高くなるなど、本州では歴史的な暖冬及び小雪となったことから、当社が運営するスキー場においては、当初想定しておりました積雪量が例年に比較して少なく、一部のスキー場において、オープン日が予定より遅延し、また、オープンしたものの雪不足による閉鎖期間が発生しており、全てのスキー場において、滑走エリアを十分に確保できなかったことなどの影響を受けました。

その結果、とりわけ、HAKUBA VALLEY白馬岩岳スノーフィールド・HAKUBA VALLEY鹿島槍スキー場・川場スキー場・めいほうスキー場において大きく来場者数が減少いたしました。

そして、期初時点において前月までのウィンターシーズン（平成27年11月及び12月）の来場者数を261千人と見積もっておりましたが、期初計画に対して、未達となりました。

#### 《ウィンターシーズン》

スキー場別来場者数

(単位:千人)

運営スキー場名	平成27年 11-12月	前年 同期間	対比
HAKUBA VALLEY白馬八方尾根スキー場	58	66	88.7%
HAKUBA VALLEY白馬岩岳スノーフィールド	6	15	42.1%
HAKUBA VALLEY榎池高原スキー場	47	46	100.9%
HAKUBA VALLEY鹿島槍スキー場	15	23	64.2%
竜王スキーパーク	45	43	105.4%
川場スキー場	11	22	51.4%
めいほうスキー場	3	31	9.5%
菅平高原スノーリゾート (注)	27	-	-
計	215	250	86.0%

(注) 菅平高原スノーリゾートは平成27年11月より当社グループに加入いたしました。来場者数については、「TARO AREA・DAVOS AREA」の来場者数を表示しております。

加えて、本年1月17日から18日にかけて、首都圏を中心に大雪となりましたが、1月以降も東日本を中心に全国的な暖冬の傾向は継続したことから、当社が運営するスキー場においては、当初は例年並みと想定していた全面滑走となる時期が遅延しております。

また、例年並みと想定していた積雪量を十分に確保できずに、当社スキー場のウィンターシーズンの営業終了時期が期初想定に比べ早期化する可能性が出てまいりました。

そのため、年間（平成27年8月から平成28年7月）を通してのスキー場全体の来場者数の見積もりについては、前月までの来場者実績に加えて、直近の来場者動向を踏まえた来場者を改めて見積りを行い、ウィンターシーズンの営業終了時期を期初予測より早期化すること等による来場者の減少を見込んだことにより、期初予想の1,984千人から1,734千人（うち、菅平高原スノーリゾートの来場者数は173千人としております。）へ変更いたしました。

なお、費用については、期初時点の前提に変更はなく、特段の見直しを行っておりません。

また、この結果、当社グループのHAKUBA VALLEY鹿島槍スキー場の固定資産について、収益性の低下による減損の兆候が認められたことから、将来の回収可能性を検討した結果、平成28年7月期第2四半期連結決算において、172百万円の減損損失を特別損失に計上する見通しとなりました。

以上の点を踏まえて、平成28年7月期第2四半期及び通期の連結業績予想を修正いたします。

なお、グリーンシーズンにおいては、来場者数が各施設で前年同期を上回り、具体的にはHAKUBA VALLEYエリアの各施設では夏山から秋の紅葉まで長い期間自然を楽しんでいただけるよう各種イベント企画や営業強化を行い、竜王マウンテンパークにおいては、「SORA TERRACE」と銘打った、ロープウェイ山頂駅舎にテラスとカフェをオープンし、来場者数を伸ばしております。

また、平成26年10月に当社グループに加入しためいほう高原開発株式会社の、のれん償却や運営に伴う費用増により前年同期に比べ平成27年8月から平成27年10月の3ヶ月分の費用が増加いたしました。これらは平成27年9月3日に発表しました平成28年7月期業績予想において織り込んでおり、今回の業績予想の修正とは関係ございません。

#### 4. 特別損失の計上

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社及び当社子会社の下記事業用資産について、収益性の低下による減損の兆候が認められたことから、将来の回収可能性を検討した結果、平成28年7月期第2四半期連結決算において、172百万円の減損損失を特別損失に計上する見通しとなりました。

場所	用途	種類	減損損失計上額
長野県大町市	スキー場用資産	建物他	172百万円

#### 5. 今後の取組について

今般の業績予想の下方修正を踏まえ、小雪のシーズンであっても着実に利益を計上できる体制の構築に向けて以下の施策を中心に進めてまいります。

##### ① ウィンターシーズンにおける対策

小雪時においても通常のシーズンと同等以上の営業期間を確保するため、気温が高い状態でもゲレンデで融雪しない人工雪を造る設備への投資を検討し、また、小雪時にあっても比較的積雪を見込める山頂部を中心としたゲレンデで営業を開始するためのリフトなどへの投資を検討し、対策を進めます。

## ②グリーンシーズンの収益強化の推進

グリーンシーズンにおいては、各スキー場の特性を活かした投資を実行しており、竜王マウンテンパークにおける「SORA TERRACE」など、一定の成果を享受しております。今後も、このような投資を継続するとともに、業務を改善し、グリーンシーズンの収益強化を推進させることでウィンターシーズンの小雪時のリスクを低減させてまいります。

## 6. 役員報酬の減額について

今般の業績予想の下方修正に対して、経営責任を明確化するため、以下の通り、役員報酬の減額を実施いたします。

対象者	内容	対象期間
代表取締役社長、取締役会長	月額役員報酬の30%を減額	平成28年2月から7月までの6ヶ月間
上記取締役及び社外取締役を除く取締役	月額役員報酬の10%を減額	平成28年2月から7月までの6ヶ月間

(注) 上記の業績予想は、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上